

# J R東日本労働組合 秋田ジャーナル

J R東日本労働組合

秋田地方本部

発行者 ～ 佐藤 俊樹

編集者 ～ 教 宣 部

秋田市中通6丁目7-9秋田県畜産ビル1F

TEL 835-4040 FAX 835-4060



## 第6回秋田地本定期大会を開催!

第6回秋田地本定期大会が9月1日、「イヤタカ」に於いて開催されました。大会は佐藤（孝）副委員長の挨拶で開会され、議長には設備分会の小木田代議員が選出され、以降の議事を先導しました。

今大会に御来賓として全交運から橋本副本部長と高橋所長が見えられ、代表して橋本副本部長から「30周年キャンペーンを取組み皆さんからのお力添えを頂いた。運動方針に全交運の取組みが記されていることも含め御礼を申し上げたい。来年4月の東北支所の休止、副本部長の廃止もあるが迷惑を掛けずにしていく。組織問題もあるが、未加入者の組織化と全交運加入促進を願う。」と挨拶。

続いて退職者連絡会の幸村事務局長から「結成11年、190人を超えた。地道にハガキで加入要請をし、情報の発信をしてきた。10月17日にグラウンドゴルフも計画。退職と共にやめる傾向が強い共済の継続にも更に取り組んでいきたい。」との挨拶を頂きました。

また、スケジュールの都合から出席できなかった藤枝隆博秋田市議からは「貴労組の足跡は公共交通である国民の足と安全安定輸送を職場から支え働く労働者、組合員の労働条件と権利を守りJR労働戦線の民主化を追求した歴史です。皆さんと共に歩んできた一人としてその誇りを片時も忘れずこれからも頑張っていきます。来年4月の秋田市議会選挙に2期目の当選を目指して立候補することを後援会の総意で決定しました。皆様のお力添えをお願いします。本大会が貴労組内の組織強化・発展、JR労働運動の民主化の展望を示し総団結が固められる場になる事をご祈念申し上げます。」とのメッセージが寄せられ、各地方本部からも連帯のメッセージが寄せられていることも報告します。



## 多くの激励・連帯メッセージありがとうございました!!



### 佐藤光雄 本部委員長挨拶

2018春闘で東労組のスト通告に端を発し、一貫した対応と労使共同宣言の失効通告。会社は30年来の労使関係の幕引きを一気に進め、わずか4か月の間に約3万人の組合未加入者が生まれた。振り返れば東労組を会社が大きくし、会社が東労組を潰した。確認したいのは労使共同宣言で組織された組合ではなくJR労働者の利益を守るためにJR労働者によって組織されている組合でなければならない、その上で労使共同宣言が一つの組合と締結していることが誤解を与える可能性がある

と労使共通認識の下でこれからの30年を見据え、信義・誠実の原則に基づいた健全な関係をつくる事を確認し、鉄産労時代からの労使共同宣言の解約をした経緯があり私達の新たなスタートとなり原動力となる。3万人もの組合未加入者がいることはユニオンの旗を挙げ続ける明確な目標になった。大部分が未加入の現状では交渉を省き会社提案＝現場周知でチェック機能が果たせず安全が懸念される。業務改革と生産性向上は実施ありきで矢継ぎ早に優先されては混乱し、これまた安全が懸念される。就業規則のみが一社員と結ばれる。その中での疑問を組合が集めその要求を組合でしか出来ない交渉の場に持ち込み発信する。労働組合に加入し、労働者としての権利と義務を守りながら会社発展のために自らの意志で会社施策に取り組む、この当たり前の姿はユニオンが実践している。社友会に入らなくとも私たちがすでにやっている。まだ私達の取組みが大きくなうねりになっていない。要求を吸い上げ交渉し、職場に返していく運動を通じ組織拡大につなげる努力を惜しまず私たち自身の変化を求めて行きたい。2019参院選・比例に「もりや たかし」、来春の秋田市議選には「藤枝隆博」氏の当選に向けて奮闘しましょう。共に頑張りましょう!!

# 業務・組織拡大で発言・意見!!

地方本部佐藤（俊）委員長挨拶と本部佐藤（光）委員長挨拶は要旨、掲載します。また、本部から岡村業長も出席ではありましたが大雨の影響で列車遅延があり途中からの参加になりました。

今大会は役員改選の大会でもあり選管が設置され、小木田議長の運営で第1号議案の大会延期承認から第7号議案までを提案・質疑応答・承認それぞれを行いました。職場の実態、意見活動内容等、報告されました。



『保線メンテでシステムと材料がミスマッチ。ペーパー2枚渡されただけでやっていけるか疑問。』

『乗務員手当、ワンマン運転の拡大等が提案されている。説明会で質問しても会社が説明できない。当然、地方と首都圏の違いはあるものの会社はそれぞれの社員に納得のいく説明をする指導をすべきだ。年金問題が身近になり聞くたびに用語も含めて「モヤモヤ」が頭を占める。方針にもあるが年金学習会を是非、開催しモヤモヤを解消してほしい。』

『行先手当について分からない所がある。ワンマン運転の拡大でも調査はしていると思うが疑問の声が上がる時間帯もある。』

『会社提案事項に無い重要な事案が若い社員を中心にした委員会によりコトが進み、伴う設備の話も進む。ルールを無視したやり方に対して整理を。』

『事務センターの役割、その業務・取扱いに不満の声が出ている。』

『東労組の瓦解は呼びかけによってユニオンに加入してくれると思っていたが現実にはハードルが高く「組合の存在意義がわからない。組合費ばかりとって何の利益があるのか？」ショックを受けた。そんな中でもユニオン加入の相談があり「自分を守ってくれる後ろ盾。親身に相談に乗って信用できる。」との思いから決めたと言われ、仕事でも組合活動でも真面目にやっていたらちゃんと見ている人がいる。職場では2027年に向けた挑戦・自己変革を求め各種委員会を立ち上げさせ本来業務そっちのけでやっている。過去に例を

見ないくらい人が少なくなり「組合なんてムダ。」と言った社員も追い詰められてほしくない。そのためにも相談に乗り頑張りたい。』



# 佐藤俊樹 地本委員長挨拶



冒頭、西日本における豪雨災害で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

2018春闘におけるJR東労組スト行使通告に端を発した混乱は、3万人にも上る組加入者を生み出し、東労組組合員は労働組に結集

しているのではなく「労使共同宣言」に依拠し、JR東労組を通して会社に帰属していたといえます。労働組合として原点を忘れ、進むべき方向を誤った結果であることを教訓として残してくれました。

社会的経済構造の変化から、危機感とスピード感を謳い文句にし、約6割が組合未加入の実態と合わさって、「実施在りき」を連想させる各職場における各種施策の周知の在り方に、労働組合軽視である事の批判を集め、交渉を形骸化させず真摯に向き合い相互理解のもとに施策を進めることを求めています。

私たちが働くうえで第一に掲げなければならないことは、一人の犠牲者も出すことなく、安全・安定輸送のために妥協はないということです。JR5社全体に大きな衝撃を与えたのぞみ34号新幹線の台車亀裂事故はいくつもの問題が重なった事象といえます。

社内のコンプライアンスに関わることは、様々な角度から点検をしなければ、なし崩し的に形骸化することを肝に銘じなければなりません。まずは実態を直視することが求められます。私たちが経験や勘に乗じて、根拠のない長年の曖昧理論で作業している部分はないのか。正しい主張が時として理想に済まされていないのかなど、自らの仕事を問い質し労働者としてチェック機能を果たすことが、会社の姿勢を正すことにつながると思います。そしてそれが財産として会社の発展に結び付くものと思います。

鉄道は効率化でカバーしようにも、技術革新で新しいシステムを構築しようにも、経験が基本作業の原点である以上マンパワーが欠かせない業種であることを、あらためて労働組合として、一組合員として認識を持ち合いたいと思います。そして私たちの運動を支えるために必要なことは、組織強化・拡大です。秋田車両センター分会において、5月1日付で平成採用の方が加入してくれました。

社会的な構造の変化に対応するために、徹底した効率化と生産性の向上が追求されていきます。そして社員は不測の事態に対応するなど、質的な変化が求められます。そこに即応できる労働組合を築いていかなければなりません。そのためにも若手社員の感性を集めて、会社に提言できる組織を目指し続けたいと思います。若手社員の加入に躊躇せず大胆に呼びかけし、将来は若手に委ねられる組織へと代わっていくことが今の私たちの使命であると思います。この先会社は組合未加入を良い事に、効率化で個々に対し責任能力を強めて来る可能性があります。労働組合としていかに個々を守るかも、現場に根差した運動を進める私たちの役割でもあります。

秋田市議会選挙では、かつて私たちの先頭に立ち、労働運動を牽引してきた藤枝隆博氏の2期目の当選を目指し奮闘することを表明します。

最後に私たちは仲間意識に支えられ、そして支え合ってきました。結集軸を二重三重に太くしていくために、これから私たちに何が求められていくのか、皆さんの声を集約して第6回定期大会の方針がより骨太になることを期待します。

## 本部・岡村業長答弁

本部の岡村業務部長は『現場実態・目線と施策が合致するか？報告にあったように地方での実態は違う事を再認識した。保線メンテ期限まで整理できなければ認められず、実情を地本通じ要求まとめて欲しい。乗務員の勤務も同じで申1号の会社との議論を参考にし、深めてほしい。これら以外に施策は出てくる。担う側が分からない、理解できない施策については安全が脅かされるようではダメだし解明要求を実態に即して出していく。各協議会もあるが「集まること」集まって話し合うことの継続をお願いしたい。』と、感想も含めての答弁。



## 地方本部・工藤書記長集約答弁

発言を受けて地本・工藤書記長は『会社施策に対しての職場実態の違いがある。保線・乗務員・検修からの報告。地方本部として、出された意見を踏まえ職場・分会とヒザをつきあわせて話し合い対応していきたい。』

3点にわたり集約答弁としたい。

1つは組織拡大。車両センターからの拡大は勇気をもらい、これまでの運動スタイルである分会運動が重要だという事を改めて実感した。個々が意識し一歩前へ踏み込む努力をしよう。2つには業務問題。委員長挨拶で述べられているように疑問・不満・要求が解決できるのは労働組合でしかない。これからは一つの業種だけではなくそこに限らず会社施策が出てくる。ヒザをつきあわせての要求作りをしていく。3つには来春に予定されている秋田市議会議員選挙で藤枝隆博市議の当選の為に力を尽くして行きたい。』と、集約答弁を行いました。



今大会で加藤副委員長が退任し、加賀谷（幸）執行委員が加わり大会終了後新たな任務分担が決まっています。大会を主導しました小木田議長、お疲れ様でした。最後に佐藤（俊）地本委員長の団結ガンバローで大会を締めくくりました。

## 2018年度秋田地本執行委員会・任務分担

役 職	氏 名	任 務 分 担
執行委員長	佐藤俊樹	総括、総務部、退職者、エルダー
執行副委員長	田中泰則	財政部、貸金福対部
〃	佐藤孝昭	業務部、業種別協議会
書記長	工藤達也	企画部、法対部、業務部、調査部
執行委員	藤田準三	エルダー協議会、サークル協議会
〃	加賀谷幸実	総務部、政治・共闘、地区協議会
〃	佐々木 徹	調査部、政治・共闘、
〃	石川誠一	教宣部、組織部、企画部
〃	鎌田義則	サークル協議会、業務部
〃	菅原 透	貸金福対部、教宣部、業務部
〃	笹 潤 太郎	組織部、業務部、青年女性委員会

## グラウンドゴルフ交流会のご案内

JR連合秋田退職者連絡会は会員とエルダー組合員との親睦交流を図るためにグラウンドゴルフを下記の要項で開催します。エルダー組合員の振るってのご参加をお願いします。

日 時・2018年10月17日（水）

会 場・太平リゾート公園 グラウンドゴルフ場 プレー開始11時 終了後、懇親会を開催します。

\* 秋田駅東口・バス乗り場【5番】より！発車時刻9時50分